

令和4年度 学校運営連絡協議会報告

1 組織

(1) 都立多摩桜の丘学園 学校運営連絡協議会 (全日制)

(2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、総務主幹1名 計2名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長(3名)、経営企画室長、主幹教諭(教務担当・事務局)、主幹教諭(生活指導担当)、主幹教諭(教育支援部担当)、進路指導主任 計9名

(4) 協議委員の構成(氏名の掲載も可)

学識経験者(大学教授)2名、就労機関代表1名、就労支援機関代表1名、福祉機関代表2名、地域自治会代表3名、PTA会長1名 計10名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和4年6月22日(水) 内部委員9名、協議委員10名

学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題

本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和4年9月28日(水) 内部委員9名、協議委員10名

授業公開、これまでの教育活動に関する報告

協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和5年2月28日（火）内部委員8名、協議委員10名

協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和4年6月22日（水）内部委員2名、評価委員2名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察

今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和4年9月28日（水）内部委員2名、評価委員2名

今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

第3回 令和5年2月28日（火）感染症対策のため書面開催

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

○生徒（抽出）聞き取り 対象：35人

○保護者評価 1回目（7月） 対象：362人 回収：265人 回収率：
73%

2回目（11月） 対象：362人 回収：276人 回収率：
77%

3回目（2月） 対象：362人 回収：286人 回収率：
79%

○教職員 1月 対象：178人 回収：173人 回収率：98%

（3）主な評価項目

○学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、健康・安全、施設・設備、感染症対策等

（4）評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

○保護者アンケートの回収率が低かった。

○全体に肯定的な評価が80%を超えている。

一方で「わからない」という回答も散見されている。

（5）評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

○今年度から保護者アンケートをオンラインによる回答に切り替えている。回収率が低かったのは、そのためもあるが、回答方法、回答内容についてさらに検討し工夫していく必要がある。

○人権感覚を問われる項目（いじめ、体罰、来校者への挨拶、校内美化等）は、常に肯定的評価が100%にならなくてはならないという意識をもつこと。

○感染症対策のため、多くの教育活動が制約の大きい中で行われている。特に学校行事の縮小、中止は児童・生徒、保護者にとっても満足できない様子が見受けられる。さらに新しいやり方を考え、できるところからできることを進めていく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

○協議会自体をオンライン（ハイブリッド方式）で開催したことで、従来であれば欠席をされていたであろう状況でも、協議委員の方には参加が可能となった。また児童・生徒からの評価ヒアリングもオンラインを併用したことで、多くの協議委員に参加していただくことができた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

○近年の障害者雇用では、オンラインを活用した就労形態が普及していることが分かった。

○より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、もっと情報提供すべきである。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

○児童・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。

（2）学習指導

○オンラインを活用した教育活動を充実させるとともに、対面型、訪問型の従来のスタイルも併用し、

目的に応じたあり方を工夫していく

(3) 特別活動

○今年度は感染症対策を施しながら、学校行事、部活動等を再開した。行事の削減のタイミングもつつ今後もこうした柔軟な取り組みを行っていく。

(4) 生活指導

○防災教育を推進し、またサポートチームとの連携を継続したことで、児童・生徒には大きな事故がなく、学校生活を送れている。今後も継続していく。

(5) 進路指導

○狭義の進路指導だけでなく、キャリア教育の視点に立ち、発達段階と年齢に応じた指導を行っていく。

○雇用状況が厳しい中であるが、積極的に就労先の開拓を行い、就労率の維持と向上に努める。

(6) 健康・安全

○当校の感染症対策は保護者からも高評価を得ている。感染状況は厳しいものがあるが、引き続き校内外での感染対策を徹底し、また保護者への情報提供を常に行っていく。

6 職員連絡会及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員連絡会及び企画調整会議への委員の参加はなかったが、オンライン等で積極的に意見をいただいた。

【成果】アンケートで得られた委員の意見を参考に、ホームページの改善を始めとして、情報発信に努めた。

7 その他

○保護者アンケート回収率を更に高めるため、アンケートの実施時期や回数、質問内容を含め検討する。